

2020年度 事業計画／予算

【海外事業】



キリマンジャロ東山麓、標高約 1,600m にあるロレ村の苗畑で苗木の世話をする環境グループのメンバー

概要

2020年度の活動は、いま世界の国々を覆っている新型コロナウイルスの影響がどうなるかにかかっています。先進国の一部の国では新たな感染者の発生は伸びが鈍化してきていますが、WHOも警鐘を発しているように、アフリカではこれから感染者が爆発的に増えることが危惧されます。

タンザニアでは3月16日に初感染者が確認され、その後5月7日現在で509人の感染者数となっています。タンザニア政府は初感染者が確認されると直ちに全土の教育機関を閉鎖し、国民に不要不急の外出や集会等の自粛（実質的な禁止）を指示しました。これにより3月から村での活動はほぼできなくなり、現在も止まったままとなっています。

一方、政府は経済活動を停滞させることを極端に嫌っており、国民に対しても仕事を休まないよう檄を飛ばしています。また教会やモスクでの礼拝も続けるように呼びかけており、その影響がこれからどう出てくるのか非常に懸念されます。

このため2020年度の事業計画は、先の見通しがきかない中で立案せざるを得ませんでした。さらにタンザニアでは年末に大統領選挙があり、活動がさらに制約を受ける可能性が高いといえます。従って以下の事業計画は、現状を前提（これ以上悪くならない）とした上で、何が出来るかをベースとした計画になっています。

(タンザニア政府発表による新型コロナウイルス感染者、死亡者数推移)→

日付	感染者	死亡者
3/16	1	0
4/1	20	1
4/10	32	3
4/13	49	3
4/14	53	3
4/15	88	4
4/16	94	4
4/17	147	5
4/19	170	7
4/20	254	10
4/22	284	10
4/24	299	10
4/28	306	10
4/29	480	16
5/3	480	18
5/7	509	21
5/14	//	//

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンの森における地域主体による森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) 地域国家安全保障担当官（Regional Security Officer: RSO）との協議継続

旧バッファゾーンの森“HMFS”（Half Mile Forest Strip）に対して行われた国立公園拡大について、現時点でこの問題を解決に向けて動かす鍵を握っているのは、地域国家安全保障担当官（Regional Security Officer: RSO）であると考えています。このため 2019 年度に RSO へのコンタクトを始め、問題解決に向けた前向きな感触を得ていましたが、年度末に人事異動があり、後任の RSO との関係構築が急務とされています。現在コロナウィルス禍によるミーティング自粛の政府指示を受け、RSO との会合も困難な状況となっていますが、年末の大統領選挙が近づけば、今年度中の会合は不可能となりかねません。そのため 2020 年度前半のうちに何とか RSO との会合を実現させ、問題解決に向けた次の動き（以下）に繋げられるようにします。2020 年度の動きは、ひとえにこの RSO との協議の結果にかかっているとと言えます。



キリマンジャロ国立公園公社によってかつての HMFS と村の境界に設置されたビーコン（テマ村）。高さは約 1メートル。ビーコンとビーコンの間は、境界を明確にするため、帯状に森が伐採されました。

(2) キリマンジャロ州知事との協議実現

現在のアナ・ムグウィラ州知事とは、知事が就任した 2017 年以来、一度も面会が実現していません。就任直後に面会を求めたものの（KIHACONE として）、州書記長から拒否され、さらに県および州によって KIHACONE が解散に追い込まれるに至り、州知事との面会は生産性がないものとして見送ってきました。しかしその後知事の態度に変化が見られることから、RSO との良好な関係が構築できた場合、これを足がかりとして知事への面会を求めるとします。面会が実現した場合、HMFS 内での地域住民による植林許可を求めていきます（そのタイミングで HMFS の返還も求めていくかについては RSO の反応次第）。

※ 4月 29日、州知事がコロナウィルスに感染したことが判明、現在隔離療養中となっています。

(3) 大統領への直訴

RSO との協議が不調に終わった場合、残された問題解決の手段は非常に限られてきます。その一つは、国会でキリマンジャロ国立公園の範囲を規定している国立公園法補助法（GN278）の法改正を目指す方法であり、もう一つは大統領に直訴し、問題解決への決断を仰ぐ方法です。しかし前者は数年の間がかかるだけでなく、これまでの経過からも、様々な妨害や横やりが入り結局何も動かない可能性が高く、選択できません。したがって後者、大統領への直訴を目指します。年末の大統領選でマグフリ現大統領は再選されるとみていますが、再選後の相当期間、大統領に面会を求められる時間はないと思われます。機会があるとすれば、大統領がキリマンジャロ州に選挙遊説で訪れることがあった場合であり、これが行われた場合、直訴を実行します（RSO との協議が順調だった場合も、RSO の理解を得られた場合、やはり実行します）。大統領の選挙遊説がなかった場合も、再選後のいずれかのタイミングで、大統領への直訴の機会を探っていきます。

(4) HAKIMAMA の地域ブロック制の導入

地域住民の平和な暮らしと環境保全の実現を目指す地域連合 HAKIMAMA (Harakati ya Mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha) は、現在モシ県の森林に沿う村々によって構成されています。森林沿いの村は全部で 40 村あり、円滑に活動を進めるためには、これらの村を地域毎にいくつかのブロック (4 ブロック程度) にまとめた方が機動的な動きが取りやすくなります。そこで RSO との協議が順調にいった場合、HAKIMAMA の中間組織として、地域ブロックを組織します。

(5) 他県との連携開始

RSO および州知事との協議が順調であった場合、HMFS の森林保全・管理において、HAKIMAMA がキリマンジャロ山を囲むすべての県 (ロンボ県、ハイ県、シーハ県) と協力していくための体制の構築に着手します。2020 年度は、これら 3 県の県議会議員および県議会議長との関係づくりに取り組みます。これについては大統領選挙と同時に年末に国会議員・県議会議員選挙も行われるため、着手時期は新議員、新議長が揃う 2021 年に入ってからとなります。ただし新議会がどのタイミングで始動するか次第で、年度末までに着手できない可能性もあります。

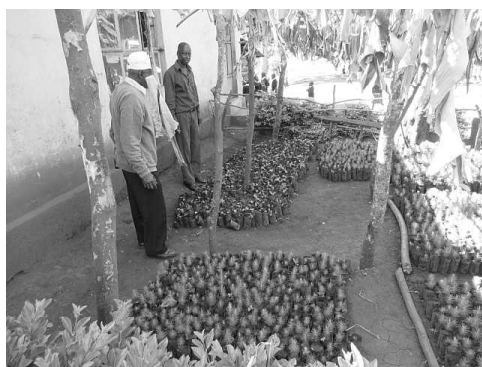
2. 植 林

(1) 植 林

2020 年度の植林は、すでに大雨季が始まっている現在、新型コロナウイルスにより不要不急の外出が制限される中、実施がほぼ絶望的な状況となっています。一部の村でごく小規模、少人数に絞った上で実施ができないか、可能性を探ることとします (各村の合計で 2,000 本程度)。

(2) 苗 畑

苗畑に関しても新型コロナウイルスの影響により、育苗作業の継続が困難となっています。このため、現在 8 カ所ある苗畑を半分まで絞り、4 苗畑体制 (TEACA、マヌ、ムシリワ、ロレ苗畑) ができる範囲で育苗を維持するようにします。



マヌ小学校苗畑。毎年村人たちが山麓の裸地化した尾根で約 2 千本の植林に取り組んでいます。

3. 養蜂プロジェクト

養蜂プロジェクトも内検、採蜜作業ともできなくなっており、養蜂箱をほぼ放置状態にせざるを得なくなっています。また 2019 年度に着手した標準トッパー養蜂箱の製作は、現場での実地指導が欠かれないため、政府による外出や集会等の制限の解除、国際線の運行再開、新型コロナウイルス禍の落ち着いたことを前提として、再着手 (製作を開始) します。またその場合、あわせて日本からの資機材供給を行います。

4. 改良カマド普及

他の取り組みに比べて大人数やグループでなくとも設置作業自体は可能なことから、できる限り実施するようにします。この場合、カマド職人、設置要望世帯同士で合意ができることおよび資材搬入ができるかがネックとなってきます。設置対象村はロレ村、設置数は 10 基とします。また資材搬入が可能な場合、運送コスト削減のため、積載上限の 30 基分程度まで前倒し搬入を行います。

5. 裁縫教室

政府の指示によりタンザニア全土の教育機関が閉鎖されており、裁縫教室の再開もその措置の解除を待たなければなりません。措置が解除された場合も、年度の大半が閉校であった場合には遅れを取り戻すことは実質的に不可能であり、そのまま授業を再開させるべきかについては、現地カウンターパートの TEACA（Tanzania Environmental Action Association）と協議が必要になると考えられます。

また 2020 年度は 7 月に寄宿舎の建設に取りかかる予定でしたが、これもコロナウィルスの感染拡大の影響を受け、状況が厳しくなっています。具体的には資材調達ができるか、搬入手段が確保できるか、建設作業員の確保ができるか、作業人数を絞っての着工が可能であるかについてになります。これらについても TEACA がフォローにあたっていますが、これもコロナウィルスの状況次第であり、見通しが立つまでには時間がかかると考えられます。ただし、いつでも着工できるよう資金支援は行うこととします。

※資材調達にかかわらず着手できる土地の造成作業については、7 月を待たず、できる限り早いタイミングで実施します。

6. 診療所支援

県政府による 2020/2021 年度のテーマ診療所（当ページ下写真）に対する予算執行状況を見た上で、診察器具、薬剤のうち、優先度の高いものへの支援を実施します。また、村における疾病の発生状況を分析するため、県政府の許可が下りた場合、診療所から継続的に疾病データを取得するようにします。

7. トイレ建設

キリマンジャロ山麓ロレ村のロレ幼稚園より、トイレが老朽化し園児たちの利用が危険になっていることから、新しいトイレの建設について支援の要請が出されています。この建設のための資金確保の目処が立ったことから、2020 年度に建設を支援します。ただし、コロナウィルスの影響による資材および建設要員の確保ができた場合を前提とし、その目処が立たない場合には次年度に延期することとします。



テマ村に完成した新診療所テマ診療所で診察を待つ村人たち

【国内事業】

1. ニュースレター

ページ削減版で年4回の発行を目指します。また現地入りが可能となった場合、これまで葉書ベースであった現地からの情報発信につき、これを簡易版ニュースレターにあらため、発行（1回）することとします。

2. イベント出展

例年通り「グローバルフェスタ」が開催される場合、これに出展し、キリマンジャロ山での国立公園拡大にともなう問題およびその解決に向けた当会の取り組みについて展示、説明を行います。

3. ぼれぼれカフェ

コロナウィルスの影響が収束し、人が集まれる環境が戻った場合に限り実施します。2ヶ月に1回を基本とし、昨年に続いて「スワヒリ語に気軽に触れられる」、「現地と直接繋がれる」をコンセプトとします。

4. ホームページのリニューアル

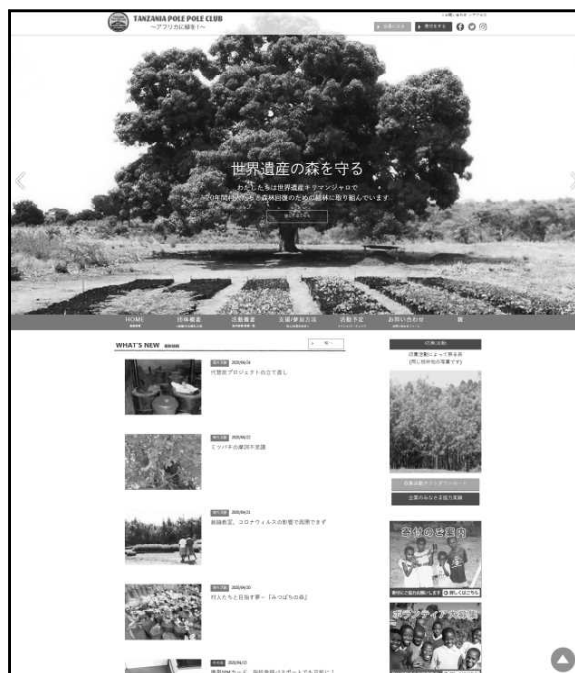
現行のホームページを、「シンプル」、「分かりやすい」をコンセプトにした新ホームページに全面改定します（イメージ：下画像）。

5. 現地プロジェクト視察／ホームステイ受け入れ

現地渡航が可能となった場合、昨年に引き続きキリマンジャロ山麓ロレ村でのプロジェクト視察／ホームステイの受け入れを実施します。募集はホームページ上での一般応募とします。また、昨年は会員と非会員の区別がありませんでしたが、会員には1割の割引制度を導入します。

6. その他

- (1) 収集活動への協力呼び掛けを全国の労働組合関連団体に対して行います（約700カ所）。
- (2) 2019年度に計画したパンフレットの改訂については、2020年度は財政が厳しく作成を見送ります。



新ホームページイメージ



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒182-0005 東京都調布東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103
